

川づくり会議みえ 第70回勉強会 みえの川を全部見るシリーズ 第9回「雲出川ってどんな川？（座学編）」開催報告

平成28年9月25日（日）14時30分から、アスト津3階「イベント情報コーナー」において、当会の第70回勉強会となる、『みえの川を全部見るシリーズ第9回「雲出川ってどんな川？（座学編）」』を開催しました。

参加者は、当会会員の他、新雲出川物語会員、愛知川の会会員、自然観察指導員三重連絡会会員など20名でした。

1. 開会

当会代表幹事の川上より、今回70回目の節目に当たるが、これまでのご支援に対するお礼と、今回お話しを頂く三重河川国道事務所藤田孝志副所長と元三重大学生物資源学部助教授木本凱夫さん（当会顧問）にお礼を申し述べました。



2. 講演

①「雲出川水系河川整備計画・取組み課題に関して」

：三重河川国道事務所 藤田副所長

平成26年11月に取りまとめられた、今後20～30年後の姿を示した「雲出川水系河川整備計画」について説明を頂きました。

平成9年の河川法改正に基づき、住民の意見を聞きながら取りまとめたこと。対象洪水としては、昭和57年の実績洪水を想定していること。下流部に広がる牧・小戸木の耕作地等を計画遊水地として河川計画に位置付けていること。計画遊水地の整備により、現在の無堤区間は築堤されるが、支川の内水排除計画、合流点処理が今後の課題と話されました。

会場からは、先例となる木津川の遊水地では、水田への越水が頻発しているが、この轍を踏まないように計画して欲しいとの意見がありました。



②「雲出川農業水利開発小史～下流を主題にして～」

：元三重大学助教授 木本凱夫さん

先生は、大学在職中からの知見に加え、新たに地域の方々のヒヤリングを踏まえ、お話しをいただきました。

稲作は、米作りの伝承と共に発達してきたこと。最初は、大河川からの直接の取水でなく、取り残された旧流路からの水を利用してのこと。土木技術の発展と共に、河川からの直接取水を行えるようになったが、現在のような全幅締切ではなく、舟運や筏流しのための開口部が設けられていたこと。素材も木や粗朶を使っていたことなどが紹介されました。

会場からは、先人の知恵と工夫に驚きの声がありました。



3. 意見交換会

会場を移し、講師の方と意見交換会を開催しました。次回の現地調査に想いを馳せながら・・・。

(文責：久世)